

「吾平小学校のそば切り踊り」伝承活動の取組

1 学校名

鹿屋市立吾平小学校

2 学年・人数

1年生4人, 2年生4人, 3年生3人, 4年生10人, 5年生11人, 6年生8人
(計40人)

3 場所・日時

(1) 練習の場所・日時

中央麓ふれあいセンター

(2) 発表の場所・日時

中央麓地区町内会フリーマーケット, 吾平町文化祭, 吾平町敬老会, あいら木市
肝属地区広域文化祭, 世界唐芋友好フェスティバル, ふるさと伝統芸能祭

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能, 伝統行事や史跡について

(1) 名称

そば切り踊り (そばきりおどり)

(2) 由来

およそ120年前に鹿児島市の谷山から中央麓地区町内会の梅下班に伝承されたと言われている。そば作りの過程から食べるまでの様子を踊りで表現するもので、踊り手が9人、配膳係が9人の18人で行なう踊りである。演奏は三味線と太鼓で行なっている。

(3) 構成等

①そばを引く ②そば粉振り ③そば作りの間はおどりが入る ④そばを伸ばす
⑤そばを切る ⑥そばをゆでる ⑦そばを川で洗う ⑧そばを食べる ⑨そばの配膳
⑩そばがおいしくて胸がつかえる ⑪最後はハンヤ節

5 保存会や地域との連携の具体

保存会が町内会の組織の一つとなっており、連携が円滑に行えている。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

(1) これまでの取組

明治時代に伝承されてから、地域活性化のために昭和30年代までは活発に踊られてきたが、それ以降は途絶えていた。昭和50年代に子ども会により一時復活したが、数年で途絶えてしまった。しかし、平成10年、吾平地域生活学校の努力により、そば切り踊り保存会が設立され、復活、現在に至っている。ただし、近年は会員の高齢化が進んでいる。

(2) 中央麓地区町内会での取組

このままでは、保存会の高齢化により途絶えてしまう恐れがあったことから、本町内会の伝統芸能であるこの踊りを保存するために、町内の子どもたちは平成22年7月から1回程度の練習を続けている。

また、平成24年4月から町内会内にそば切り踊り保存部会を設け、伝承を行っている。

7 取組の様子（練習状況、発表の場等の写真）



練習の様子



発表の様子（平成23年度縄文の森秋祭り）

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

(1) 参加児童生徒

- ・ 教えてくれたおばちゃんたちのように堂々と踊りたい。
- ・ 伝統の踊りでみんなに楽しさを与えたい。
- ・ 指導してくれるおばあさん達から上手と言われたらうれしい。
- ・ 練習は大変だけど本番でみんなの手が揃えばやる気が出てくる。
- ・ 伝統の踊りをみんなで大切に継承していけることがとてもうれしいし、実際に踊ってみて楽しいおどりだった。これからもずっと継承できるように自分たちも頑張りたい。

(5・6年生児童)

(2) 保存会

- ・ 高齢化に悩んでいたが、地域の元気な子どもたちが伝統を継承してくれてうれしい。
- ・ 手の振り方などとても上手になってきており、自分達（保存会）よりも上手くなっている子もいる。
- ・ 保護者の方も熱心にサポートしてくださっているので助かる。
- ・ たくさんの子ども達が参加してくれるので、そば切り踊りが途絶えることなく継承していくと思う。

(3) 保護者

- ・ 親の都合が悪く、練習にいけない時にも子ども達は練習に行きたがる。
- ・ 高齢者が一生懸命教えてくれ悪い時には叱ったりしてくれるので、子どもの健全育成になる。
- ・ 指導がとても良く、悪い時は怒ってくれるところが良い。また、子どもたちも怒られても言うことを理解し、練習に行きたいと言う。
- ・ 親同士、子ども同士のつながりが広がっている。子どもは各学年とのつながりが広がっている。
- ・ 練習の成果が出て、まとまり感も出てきた。20人近くで踊るがきれいに手が揃い、チームワークも出てきている。